

自動車整備科をはじめ、全科で市内の小学校6年生を招きものづくり教室を開催 (弘前市立桔梗野小学校・弘前市立朝陽小学校)

本校では、平成30年度から市内の小学校を対象に、将来、どのような職業に就きたいかを考えるきっかけにするため、「ものづくり」の楽しさを知ってもらうことを目的に「わくわく体験授業」を実施しています。今年度は、午前部に弘前市立桔梗野小学校の6年生52名と午後の部に弘前市立朝陽小学校の6年生26名が4班に分かれて、自動車整備科、総合建築科、造園科、ライフライン設備科を巡り、各科の担当職員と学生から指導を受けながらものづくりに挑戦しました。



自動車整備科は、電気で動く「エコモビル」の組立に取組み、参加した児童のみなさんはエコモビルのクルマ本体に電気をためるため、発電機を一生懸命回していました。その後、蓄電したエコモビルのレースでは、スタートと同時に勢いよくカーブを描きながらコースを外れてゴールから遠ざかっていくクルマやゆっくり走るクルマなどがありました。参加した児童の方から「クルマが真直ぐ進んでくれて嬉しかった」「電気自動車の仕組みが意外と簡単でした」という感想がありました。

最新技術講習シリーズ

(株)ホンダ四輪販売東北様から講師を迎え、新しいクルマの技術を学ぶ

各ディーラーのみなさまのご協力で、学生に対して新しいクルマの最新技術について講習をしていただいています。今回は株式会社ホンダ四輪販売東北様から講師を迎え、最新の自動車を教材に講習会を開催しました。講習ではホンダハイブリッドe-HEVの構造や制御技術についての講習をしていただきました。



工事現場の現場監督、住宅を建てる建築大工の仕事内容は？ 建設業「働いてよかった！」先輩講演会を開催

総合建築科の学生を対象に「建設業『働いてよかった！』先輩講演会」を開催しました。講師に株式会社堀江組の堀江幸成氏と株式会社有齋建ホームの齋藤法雄氏を迎え、将来の仕事に対するリアルなイメージを持ち、仕事に対する疑問や不安を解消するために、現場監督と大工の仕事内容について話していただきました。



建設業で活躍されている業界の先輩の講演会は学生にとって2年生からコース制になるため、設計士や現場監督を目指す「管理コース」と現場で施工に携わる大工になる「施工コース」の仕事イメージする上でとても参考になるものでした。今回の講演会でご協力いただきました関係者のみなさまには、たいへん貴重な場をもうけていただきましたことに対して感謝申し上げます。ありがとうございました。

江戸時代からの木製アーケード

「こみせ」通りを歩き、黒石のまちをもっと知るためのフィールドワーク

建築を学ぶ総合建築科1年生の学生を対象に、県の景観アドバイザー制度を利用して、まちづくりに対する関心と良好な景観形成への意識を育むことを目的として、まちづくりに積極的な地域を訪れてその取組を学ぶ「地域のまちづくりの現状を知るまち歩きフィールドワーク」を開催しました。今回の講師は、青森県景観アドバイザーである弘前大学特任教授の北原啓司先生を講師に迎え、『「空間」を「場所」に変えるまち育て 黒石市はおもしろい』を題材に黒石藩政時代から残る歴史的な建造物である「こみせ」の歴史や「NPO法人横町十文字まちそだて会」の取組について、事例を提示していただきながら講演をしていただきました。



江戸時代からの木製アーケード「こみせ」通りを歩き、黒石のまちをもっと知ろう！』をテーマに開催したまち歩きは、多くの方に協力していただき無事終わることができました。参加した学生からは、「まちを歩いて初めて分かること、歩いてみないと分からないことがあるということを実感することができました」「まち歩きを通して地域資源や地域課題を見つけることができました」という感想がありました。黒石市中町のこみせ通りは、一歩踏み入ると江戸時代と錯覚してしまいそうな街並みとなっており、こみせの空間では地域の賑わいと親しみを感じることができました。

弘前市吉野町煉瓦倉庫 シードル工場から美術館へ 『延築で「空間」を「場所」に』…弘前れんが倉庫美術館の歴史と構造を学ぶ

黒石市中町こみせ通りで開催した、地域のまちづくりの現状を知るまち歩きフィールドワークの2回目の事業として、弘前市吉野町にある「弘前れんが倉庫美術館」で青森県景観アドバイザーの弘前大学特任教授である北原啓司先生を講師に迎え、『延築で「空間」を「場所」に—弘前れんが倉庫美術館—』をテーマとして講演をしていただきました。講演では、昭和を代表する建築家の前川國男氏が設計した建築物が現在も弘前市内に8つ残っていることや、弘前市には「前川國男の建物を大切にする会」というグループが日本で唯一存在しており、歴史を大事にするだけでなく、それを未来につなげて古い建物を更に育てていこうとする人たちが多くいることを知ることができました。

弘前れんが倉庫美術館は、2000年代に弘前市出身の現代美術家である奈良美智氏の展覧会が3回開催され、美術館がなかった弘前のまちで市民が主体となった実行委員会や大勢のボランティアスタッフによって作り上げられた展覧会は大成功を収め、その規模や類を見ない主催のあり方から「奇跡の展覧会」と呼ばれ、この展覧会の開催が弘前れんが倉庫美術館の開館につながったということでした。講演終了後は各グループで意見の共有をして、それぞれの学生から講演に対する感想発表をしてもらいました。



午後は弘前れんが倉庫美術館の運営を統括する小杉在良氏のご説明で美術館の内外を案内していただきました。弘前れんが倉庫美術館の大きな特徴は、美術館の構造やれんが倉庫に高い耐震性能を持たせるために、建築家である田根剛氏が既存のレンガ壁の外観をほとんど変えることなく、既存のレンガ壁に空けた深さ9mの穴に12mの鋼棒を打ち込んでコンクリートを流す耐震補強がレンガ壁の1mピッチに施されて修復されているということでした。この他にも館内入口のエントランスは、ドーム型のアーチ

状に積み上げた煉瓦造りとなっており、「弘前積みレンガ工法」と呼ばれるオリジナルの手法を採用した珍しい形状となっていました。

弘前市は、江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代を代表する「古き良き建物が残っているまち」となっているため、建築を学ぶ学生のみならず市内にある多くの建物を見て、弘前市の魅力に気づいて欲しいと思います。

モノづくりは人づくりから 地域に根差した職業能力開発校をめざして